

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

政策名	交流・環境	28年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 水族館事業担当課長	
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成	成果	コスト				
事務事業名	名古屋港水族館の振興	継続	拡大	拡大	連絡先 連絡課	052-654-7836	
目的	対象(誰・何を)	広く一般の利用者				事業 期間	平成18年度～継続
	意図(どうい う状態にしたいか)	海洋文化の普及に努めます。					
概要	水族に関する知識や水族への親しみ、県民・市民の健全な余暇の活用などを目的とした名古屋港水族館の振興を図ります。					根拠 法令等	指定管理者による公 の施設の管理に関す る条例、名古屋港水 族館条例
29年度の実施予定	指定管理者に対して、定例的な会議、モニタリングを通して、指導・助言を行っていきます。					実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
						関連 シート	

2 DO(実施)

29年度に実施した 内容・結果	指定管理者に対して、定期的な会議、モニタリングを通して、緊密な情報交換、必要な指導・助言を行い、利用者が増加するよう努めました。クラゲの特別展、シャチ「アース」購入後に夏休みから開始したメインプールでの「シャチ公開トレーニング」、「ごまちゃんデッキ(ゴマファザラシ等)」などの新たな展示の実施や、ニュースリリース、ホームページ、フェイスブック等の多様な手法により効果的な情報提供に努めるとともに、繁殖研究に取り組みました。また、大型映像表示装置の補修を完了するとともに「ウミガメ回遊水槽」の補修(平成30年度完了予定)に着手しました。					
コスト	単位	27年度	28年度	29年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	254,056	340,439	1,090,240	561,578	事業費には、本組合が実施した施設の工事費及び生物の購入・借上に係る費用等を計上しています。 なお、平成29年度はシャチ購入やカメ回遊水槽補修工事等により増加しました。
人件費	千円	10,703	10,751	11,028	10,827	
合計	千円	264,759	351,190	1,101,268	572,405	

3 CHECK(検証)

指標名		27年度	28年度	29年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
入館者数(万人)	目標	210	210	221		221	過去の実績等を踏まえた目標入館者数	
	実績	205	197	222				
(単年度管理型)	事業進捗状況(29年度)		<input checked="" type="radio"/> 目標値を上回る <input type="radio"/> 目標値をやや下回る		<input type="radio"/> 目標値どおり <input checked="" type="radio"/> 目標値を下回る			
ニュースリリース数 (件)	目標	104	104	104		104	イベントや企画等のニュースリリースを発行した件数。平成23～25年度の平均値	
	実績	93	82	68				
(単年度管理型)	事業進捗状況(29年度)		<input type="radio"/> 目標値を上回る <input checked="" type="radio"/> 目標値をやや下回る		<input checked="" type="radio"/> 目標値どおり <input type="radio"/> 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	入館者数は、シャチ購入後に夏休みから開始したシャチのメインプールでの公開トレーニング、「ごまちゃんデッキ」の新たな展示などの取組が、広報活動によるマスメディアの情報発信も伴って好評を得て、前年度比113%となりました。ニュースリリース数は、目標値を下回りましたが、ホームページの活用他、ブログやフェイスブック等の多様な手法により効果的な情報提供に努めました。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	<input type="radio"/>	親しまれる港づくりを推進するため、本組合が関与する必要があると考えています。また、広く一般の利用を対象として海洋文化の普及に努めており、利用者ニーズや社会環境に適合しています。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>						
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	<input type="radio"/>	入館者数は、開館翌年度の平成5年度に続く歴代2位を記録し、多くの人が訪れる施設となっており、本港のにぎわい創出に貢献しています。					
	期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>	ニュースリリース数は、目標値を下回りましたが、ホームページの活用他、ブログやフェイスブック等の多様な手法により効果的な情報提供に努めるなど、広報活動に鋭意取り組みました。					
効率性	最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/>	施設の維持修繕等は優先順位を定め、最少のコストで最大の効果が得られるよう努めています。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	30年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	維持	維持	ガーデンふ頭における親しまれる諸施設の中核施設として、引き続き更なる集客に努める必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題	30年度以降の取組		
更なる集客や施設の良好な維持管理を図るとともに、鯨類のプールの使用状況等を踏まえ、持続的かつ安定的な展示のための検討を行っていく必要があります。	更に魅力ある施設となるよう取組むとともに、施設の良好な維持管理に努め、多彩な展示・イベントの開催や積極的なPRの実施により、更なる集客に努めていきます。また、平成30年度は、鯨類のより良い繁殖環境のあり方検討調査に取り組んでいきます。		